

令和8年 5月1日

書写・書道教育関係者 様

全日本高等学校書道教育研究会

会 長 木村 則夫

(神奈川県立相模原高等学校副校長)

第51回全日本高等学校書道教育研究会富山大会

大会長 向 茂美

(富山県立福岡高等学校校長)

## 第51回全日本高等学校書道教育研究会 富山大会【北信越ブロック開催】 - 最終案内 -

### 大会テーマ

## 『書道でウェルビーイング』

～ より良く学び、より良く生きるために、書道教育はいかに貢献できるのか ～

2023年、G7富山・金沢教育大臣会合において「富山・金沢宣言」にウェルビーイング向上策が盛り込まれ、大きな注目を集めました。開催地である富山県では、成長戦略の軸としてウェルビーイングを推進しており、行政、教育、民間が連携した様々な取り組みが展開されています。しかし、ユニセフの報告によると、日本の子どもたちの精神的幸福度は先進38カ国中37位と、憂慮すべき状況にあります。

このような現状を踏まえ、本大会では「書道でウェルビーイング～よりよく学び、よりよく生きるために書道教育はいかに貢献できるのか～」をテーマに掲げ、書道教育を通じて、生徒たちの精神的な幸福度を高めるための方策を探求いたします。

書道は、自己と向き合い、心を落ち着かせ、表現する喜びを味わうことができる芸術です。書道を学ぶことを通じて、自己肯定感を高め、自己実現を促すとともに、他者との交流や相互理解を深めることができます。本大会では、このような書道教育の可能性を最大限に引き出し、生徒たちのウェルビーイングに貢献する教育のあり方を、富山から全国に向けて発信していきたいと考えています。

令和4年度より、高等学校では新学習指導要領が年次進行で施行されています。

予測困難な時代において、学校教育には、生徒が変化に主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決する力、情報を見極め、知識を活用して新たな価値を創造する力などを育むことが求められています。新学習指導要領では、生徒の視点に立ち、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で資質・能力の育成を目指しています。

激動の時代だからこそ、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力、そして学びに向かう力や人間性等の育成が不可欠です。さらに、社会との連携・協働を通じて、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことが重要となります。本県の高等学校教育研究会書道部では、これらの点を踏まえ、大会テーマのもと、学びの質を高める書道教育の在り方を模索し、「指導と評価の一体化」に向けた学習評価の改善等の研究協議を重ねてまいりました。

前々回の川崎特別大会、前回の和歌山大会から継承した知見を活かし、生徒、学校、地域の実態を踏まえた授業実践や研究を発信いたします。

自然豊かな富山市を会場に、全国各地から書道教育に情熱を注ぐ皆様とともに、これからの高等学校芸術科書道教育の未来について深く議論し、共に考える機会となることを願っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。